

Out of Aso

阿蘇と外

今月の特集は

「Out of Aso (アウト・オブ・アソ)」。

「阿蘇の外」や「阿蘇から外へ」といった意味があります。

阿蘇を「外」から見ること。

阿蘇が「外」へ与えた影響を考えること。

阿蘇と「外」とのつながりに思いを巡らせること。

.....

阿蘇にまつわる学びや問いを発見するきっかけとなれば幸いです。

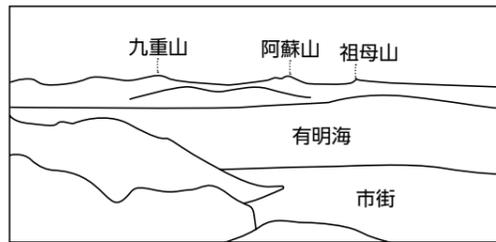
PHOTO: 南西方面から見た阿蘇。写真の中央付近に阿蘇の山々が見える。
その向こうにはくじゅう連山。

九州各地から望む阿蘇

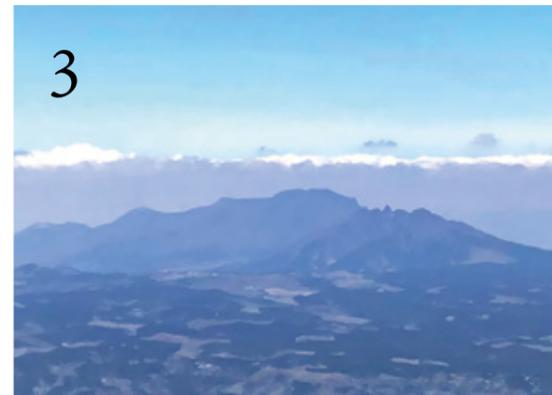
いつも変わらない姿で私たちを見守ってくれている阿蘇山。その雄姿は阿蘇から離れた地からも望むことができます。九州各地から見た阿蘇山のようすをご紹介します。

- 1 佐賀県の天山から望む阿蘇。涅槃像が見える。天山の頂上には阿蘇惟直の墓がある。(北島俊郎氏提供)
- 2 長崎県南島原市の仁田峠第二展望所から望む阿蘇(長崎県自然環境課 提供)。昭和36年4月25日、昭和天皇が峠で詠んだ和歌の記録が残されています(昭和天皇実録第十三から)。

「大阿蘇は波路はるかにあらはれて
山なみうすく霞たなびく」



- 3 宮崎県と大分県に跨る祖母山頂から望む阿蘇。右に根子岳が写る。
- 4 宮崎県五ヶ瀬町の五ヶ瀬ワイナリーから望む阿蘇(五ヶ瀬町提供)。
- 5 福岡県の釈迦岳から望む阿蘇。涅槃像としてなじみある姿に近い形。



外から見た阿蘇 Out of Aso



武藤さんが書いた記事はこちら



武藤佑香里さん

校歌に「阿蘇」「阿蘇山」または関連する言葉が入っている高校

阿蘇中央高	宇土高	大津高	鹿本高	鹿本農業高
菊池高	菊池農業高	九州学院高	熊本学園大付属高	熊本工業高
熊本北高	熊本高	国府高	熊本商業高	市立千原台
熊本農業高	慶誠高	翔陽高	済々黌高	高森高
第一高	第二高	東海大学付属星翔高	文徳高	矢部高
	熊本マリスト学園高	ひのくに高等支援学校	熊本西高	湧心館高

※ 武藤さん調べ

うです。現在と比べて高い建物が少なかった時代は噴煙を上げる阿蘇山が今より大きく、心強く感じたのでしょうか。遠い昔の時代から多くの若人を見守ってきた阿蘇山。これからも末永く歌い継がれていくことでしょうか。

調査の結果、荒尾・玉名地区を除く県北地域や熊本市内のほとんどの高校で阿蘇または阿蘇山に関連する言葉を使用していたそうです。「多くの学校で使用されていて驚きました。阿蘇市出身として誇らしく感じました」。

中学校についても調べたところ、近年新設された学校に比べ、昔からある学校で「阿蘇」と歌っている傾向があったそ

「校歌ができた当時は大きな阿蘇山を見ることができたのでしょね」。内牧1区出身の武藤佑香里さん(熊本市在住)はそう思いを巡らせます。武藤さんは、熊本県に特化した情報を発信する地域密着型メディアサイト「肥後ジャーナル」の編集長。県内だけの学校で阿蘇を歌っているのかを記事にしました。

高校野球屈指の名門として知られる熊本工業高校。甲子園でも幾度となく流れてきたその校歌は「山は大阿蘇」から始まります。この歌い出しは、平成28年、長い歴史に幕をおろした宮地小学校の校歌と全く同じ。阿蘇市のほぼ中央、阿蘇山を正面に望む宮地小に対して、熊本工業高校があるのは阿蘇から50キロメートル近く離れた熊本市。阿蘇の外にある高校で「阿蘇」から歌い始めるのは不思議に思えます。

阿蘇の外、若人が歌い継ぐ阿蘇

草原を守るために



野焼きボランティア
のぶお
高嶋 信雄さん(古神3区)

“ 私は千葉県から2006年に移住してきました。それ以来、野焼きボランティアとして草原に15年近く携わってきました。草原が減少している今、その価値をより多くの人に知ってほしいと考えています。

草原の価値はその高い水源涵養能力だけではありません。1つ目に、草原が作り出す雄大な景色です。観光客に阿蘇でいいと感じた風景を尋ねた調査では8割近くの方が「草原が広がる風景」と答えました。

次に、地球環境への貢献です。阿蘇郡市の全世帯が1年間に排出する二酸化炭素の1.7倍相当を野焼きをしている草原が吸収しているとされています。

草原は生物多様性も守っています。阿蘇の草原に生育する植物は600種とも言われています。

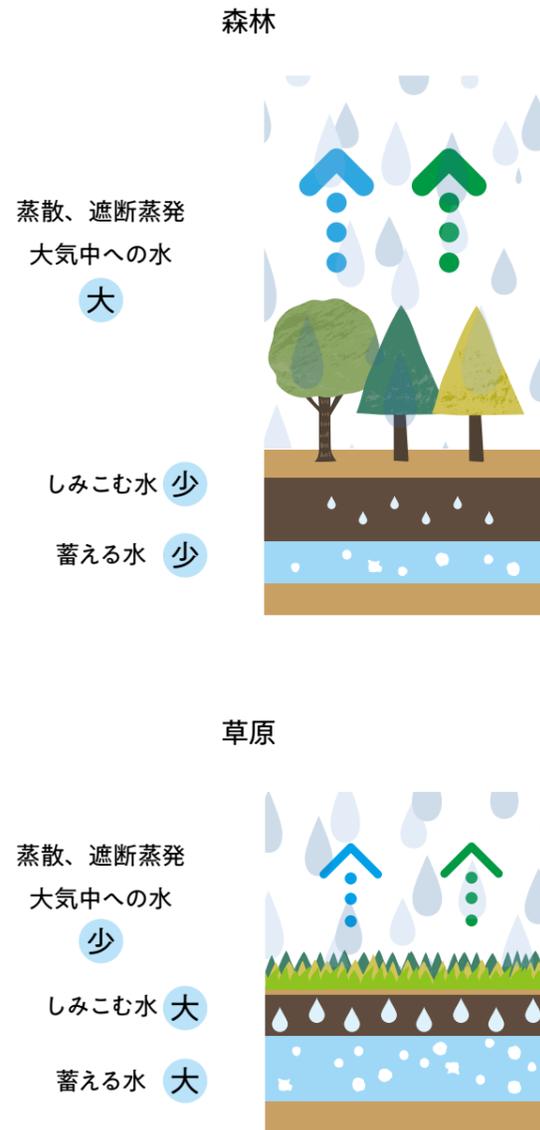
草原を守っていくための活動の一つが野焼き支援ボランティアです。野焼きは草原を維持するために千年以上行われてきました。野焼きの季節には火消し棒を持って火が延焼しないように牧野の中を歩き回ります。普段入ることができない牧野は景色がとてもいいです。空気がおいしく、風もさわやかです。何より草原の中で体を動かすので気持ちがいいです。

草原を守るためにできることは野焼きに直接参加する以外にもあります。例えば、地元のあか牛を食べることです。あか牛は草原の草を食べてくれる大切な存在です。「阿蘇あか牛肉料理認定店」であか牛を食べることで阿蘇の草原保全に貢献することができます。

草原再生シールが貼られた野菜を食べることも草原保全につながります。この野菜は草原の草を混ぜた堆肥を使って育てられています。野草堆肥を使うと味がよくなるという研究もあります。

草原再生募金はその名のとおり、草原再生のための募金です。集まった募金は、あか牛の導入補助費用など草原再生に関する支援に活用されます。

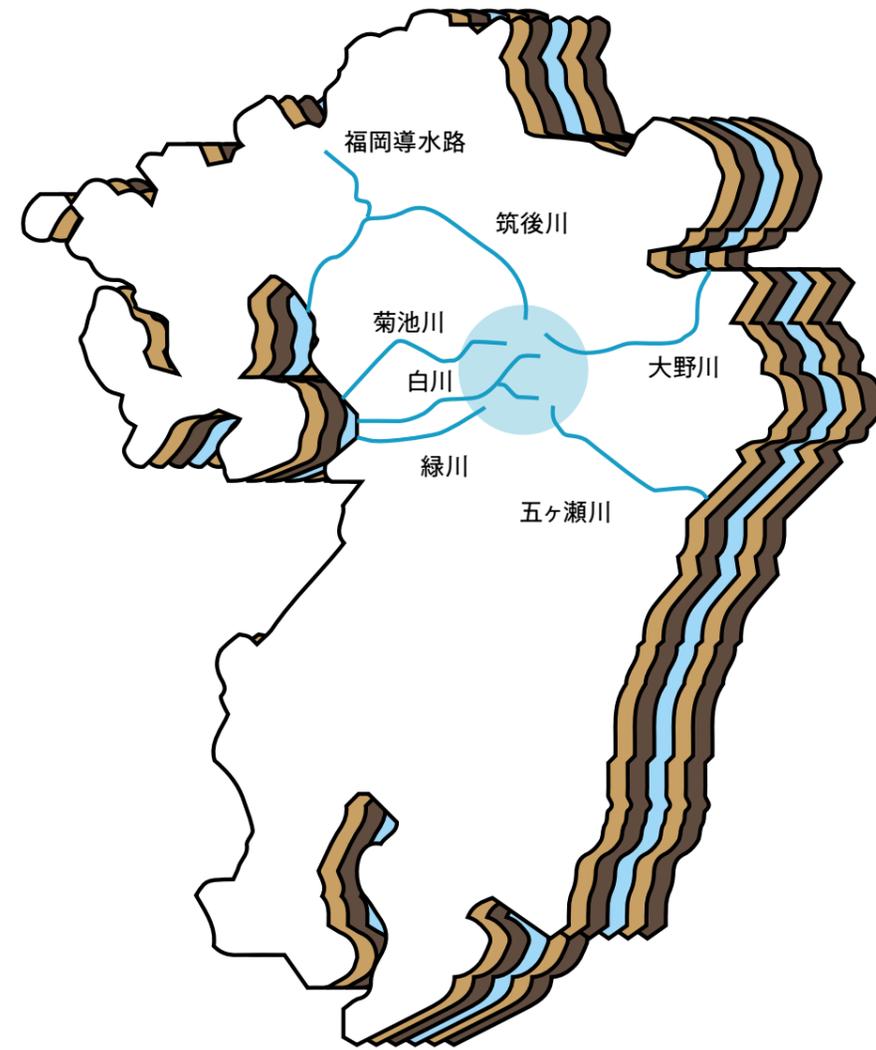
草原と森林の水源涵養能力の違い



いいます。環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所の下淳一さんは草原が高い水源涵養能力を持つと話します。「最近の研究で、蒸散（植物が体内に取り込んだ水分を葉などから空气中に放出すること）の量が、スギ、ヒノキ、ヤシバシなどの樹木に比べて、ススキなどの草原の植物がかなり小さいことが分かりました」。遮断蒸発（樹木に付着した雨が地面に到達せずに蒸発すること）の量も草原のほうが小さいとされています。草原の方が森林より高い水源涵養能力を持っており、草原の面積が減少していくことによって地下水の量や河川の水量も減少していくと考えられます。

Out of Aso

阿蘇から流れ出る命の水



阿蘇の水は500万人のもとへ

阿蘇は九州の水がめ

阿蘇神社の門前町は、町のいたるところに水基と呼ばれる湧水の水飲み場が点在しています。湧水を活用した飲食店や、古き良き風情の漂う雑貨屋も点在し、水基めぐりとして人気のスポットです。多くの人がこの地を訪れており、地元の人だけでなく観光客にも愛される湧水であることがうかがえます。

いたるところで冷たい水が湧き出る阿蘇はまさに水の里。生活用水や飲み水として大切にされています。

こうした阿蘇の水は白川や筑後川、大野川など6本の一級河川となって、九州各地へと流れ出しています。福岡導水路を通じて供給している福岡都市圏も合わせるとその流域の人口は約500万人。九州のおよそ3人に1人が命の水として阿蘇の水を使っているのです。

草原が水を蓄える

これほど多くの水源が存在する背景には降水量の多さがあると考えられます。阿蘇山の年間降水量はおよそ3000ミリメートル。全国平均の2倍近い雨が降っています。阿蘇に降った多くの雨が水源として湧き出しているのです。

降った雨を地中に蓄え、ゆっくり川や湧き水に供給する機能を水源涵養能力と

おおいた豊後大野ジオパーク



おおいた豊後大野ジオパーク
Oita Bungo Ono Geopark

豊 後大野市は大分県の南部にあり、全域が日本ジオパークに認定されています。

9万年前の「阿蘇-4火砕流」で豊後大野はほぼ全域が火砕流で覆われました。その厚さは数十メートルにもなったとされています。火砕流は冷え固まり「溶結凝灰岩」と呼ばれる岩石になりました。このときできた柱状節理と呼ばれるひびわれは縦に細長く割れる性質があり、目をみはる滝や絶壁を作り出しました。

溶結凝灰岩の一部は柔らかく加工がしやすいため、磨崖仏が彫られました。おおいた豊後大野ジオパークには多くの磨崖仏が残されています。

(参考：おおいた豊後大野ジオパークホームページ)

写真上：岩戸の景観 写真右：原尻の滝
(おおいた豊後大野ジオパーク提供)

写真左：菅尾磨崖仏
(おおいた豊後大野ジオパーク提供)



令和3年10月20日、噴火した中岳。火砕流は火口から1キロまで到達した。9万年前の噴火では約170キロ近く離れた山口県まで到達したというから、桁違いの噴火であったことが想像できる。

ASO-4の巨大噴火

- ▲ 阿蘇
- 火砕流が到達したところ
- 火山灰が到達したところ



滝室坂トンネル避難坑の貫通石。阿蘇-2火砕流の堆積物。

阿蘇から Out of Aso 全てを変えた大噴火

お土産は14万年前の岩石

暗い地下に鳴り響く重機の音。残った岩盤をドリルで砕くと向こう側から光が差し込みました。9月4日、国道57号滝室坂トンネルでは避難坑が貫通。記念イベントが開かれました。イベントのお土産として参加者に配られたのは最後に残った岩盤を細かく砕いた貫通石。黒くごつごつしたこの岩石は14万年前の巨大な火砕流噴火、「阿蘇-2火砕流」により運ばれた堆積物でした。

巨大な噴火とカルデラの形成

阿蘇では27万年前から9万年前にかけて「阿蘇-1火砕流」から「阿蘇-4火砕流」まで4回の巨大な火砕流の噴火が起こりました。14万年前の阿蘇-2火砕流もその一つ。巨大な火砕流噴火により大量のマグマが噴出し、地面が陥没することでカルデラが形成されました。

巨大な噴火は景色を一変させた

4回の噴火でも特に規模が大きかったと考えられるのが9万年前の阿蘇-4です。このときの火砕流は阿蘇から170キロ離れた山口県まで到達。火山灰はなんと北海道斜里町まで到達したとされています。

この巨大噴火は、周囲の地形も一変さ

せたと考えられます。阿蘇の周囲には阿蘇の巨大な火砕流が生み出した絶景が数多く見られます。

例えば、大分県豊後大野市の原尻の滝。幅120メートル、高さ20メートルを誇り、東洋のナイアガラと称されます。この滝は「阿蘇-4火砕流」が冷えて固まった溶結凝灰岩が崩落してできたものです。その他にも、菊池溪谷や宮崎県の高千穂峽も阿蘇から噴出した溶結凝灰岩からなるとされています。

人々の信仰にも

火砕流は、その後の人々の営みにも大きな影響を与えました。仏教が広まると信仰の対象である仏を表現したのとして、多くの仏像が制作されました。大分県豊後大野市の菅尾磨崖仏や白杵市の白杵石仏もその一つです。磨崖仏とは崖に直接彫られた石仏のこと。これらの磨崖仏は「阿蘇-4火砕流」の溶結凝灰岩に彫られています。

溶結凝灰岩は加工のしやすさから石材としても多く活用されました。大阪府の推古天皇陵とされる古墳からも阿蘇の溶結凝灰岩で作られた石棺が出土しました。阿蘇火山のもたらしたものは、遠く離れた人々にとっても大切なものだったでしょう。

幻の名刀 蛭丸

多々良浜合戦に参戦した一族の恵良惟澄が使ったとされる太刀。尊氏方に敗れ、大宮司・惟直が命を落とした。大勢の敵を切り倒し、歯こぼれが生じたこの太刀に大勢の蛭が飛来し、太刀が元通りになったという言い伝えからその名がついたとされる。阿蘇家が所有していたが、太平洋戦争後 GHQ による刀剣接収の混乱を経てその所在が分からなくなっている。

平成 29 年、岐阜県と大分県の刀匠 2 人がクラウドファンディングで投資を募り、押形をもとに蛭丸の写しを製作。神社に奉納された。

足利尊氏の文書 原本と確認



多々良浜合戦後、尊氏は後醍醐天皇方として敵対した阿蘇氏への圧力を強めた。大宮司・惟直亡き後の阿蘇氏に対し、後継の大宮司を急ぎ推薦するよう御教書を発行。この 2 日後には、尊氏方の大宮司として坂梨孫熊丸を任命した。

10 年ほど前に阿蘇神社の社務所で見つかった古文書が今年 7 月までの調査でこの御教書の原本だと確認された。(写真は阿蘇神社提供)

佐賀に眠る惟直



多々良浜合戦で敗れた惟直は天山(佐賀県)で自害。山頂には惟直の墓が建てられ、今でも阿蘇山を望む地で大切にされている。

阿蘇神社に奉納された蛭丸の写し(阿蘇神社提供)

都で破れ劣勢に立たされた尊氏は九州で再起を図りました。大宮司・惟直や菊池武敏らの南朝方は多々良浜(福岡市)に集結。尊氏の軍勢との合戦に臨みました。優勢に思われたものの後醍醐天皇方は敗戦。惟直は佐賀県の天山で自害しました。尊氏は後醍醐天皇方として敵対した大宮司・惟直の後継として別の一族から坂梨孫熊丸を任命。孫熊丸は尊氏方の大宮司として南郷谷に拠点を置きました。惟直の父・惟時は本州での戦いから戻り、大宮司に復帰。阿蘇氏の中に尊氏方の孫熊丸と後醍醐天皇方の惟時という 2 人の大宮司が並び立つ事態となりました。惟時は娘婿の惟澄と共に孫熊丸を滅ぼし、阿

蘇家を統一。その後は尊氏方、後醍醐天皇方どちらかについて戦うことはせず、最期まであいまいな態度を示し続けました。惟時の死後、阿蘇家は再び分裂。惟澄の息子である惟村と維武の兄弟はそれぞれ尊氏方と後醍醐天皇方に別れました。真の統一は惟村の孫、惟忠の代まで待つ必要がありました。

武家としての歴史に幕

室町幕府の滅亡後、再び戦乱の時代が訪れると、薩摩島津氏の侵攻を受け、武士団の頭領としての歴史に幕をおろしました。その後、肥後藩主の加藤清正によ

り阿蘇家は再興。現在まで続いています。こうした歴史は阿蘇家に伝わった古文書群で知ることができます。これらは九州の歴史を伝えるものとして、歴史研究にも活用される貴重な史料です。阿蘇を飛び出し、歴史の舞台に躍り出た阿蘇の武士団。晩年の惟時のように戦わないことを選んだ大宮司もいた中、彼らはなぜ戦うことを選んだのでしょうか。いろいろな事情があると考えられますが、はつきりとしたことはわかりません。この機会に彼らの気持ちに思いを馳せてみるのもいいかもしれません。

阿蘇から Out of Aso 動乱の中を駆け抜けた武士団

武家としての阿蘇氏を今に

静まり返る境内。馬の鞍上には直垂ひたなに烏帽子えぼしを着けたただけの武士の姿がありました。高らかな足音とともに人馬一帯の走りで参道を駆けていきます。男性はすばやく矢をつがえると、放たれた矢は一直線の的のもとへ。見事に命中すると紙吹雪が辺りに舞い散りました。

9 月 25 日、阿蘇神社田実祭で奉納された流鏑馬のようです。この行事は秋の収穫に感謝するもので、国指定重要無形民俗文化財「阿蘇の農耕祭事」の一つです。一方で現在まで阿蘇神社の神職を務める阿蘇氏の武家的な性格の名残りでもあるとされています。阿蘇の地に興った阿蘇氏は阿蘇の地から出て歴史の舞台で躍動しました。

阿蘇にとどまらなかった阿蘇氏

阿蘇氏がかつて阿蘇社(現在の阿蘇神社)で神事や祭礼を司っていた豪族だったと考えられています。12 世紀にかけて南郷谷の開発が進むにつれ、その本拠を阿蘇社がある阿蘇谷東部から南郷谷(現在の南阿蘇村)に移し、武士団を形成していきます。阿蘇氏はさらに勢力を伸ばしていき、その本拠は阿蘇の外へ。最盛期には現在の山都町

に屋敷を構え、阿蘇から宇土半島まで熊本県中部一帯に影響力をおよぼすまでになりました。

阿蘇氏と鎌倉幕府の滅亡

14 世紀の大宮司(阿蘇氏の当主)阿蘇惟直は、熊本有数の武将・菊池武時に誘われ、鎌倉幕府の役所であった鎮西探題を攻撃。幕府に対する武士たちの不満が高まっていた時期でした。菊池・阿蘇の軍勢は仲間の裏切りにあつて敗退。菊池武時は討ち死に、阿蘇氏は逆に幕府方から攻められてしまいました。その後、天皇方として足利尊氏が立ち上がると幕府は滅亡。菊池氏と阿蘇氏は倒幕の先駆けとして新政権に高く評価されました。阿蘇氏への恩賞は大きく、阿蘇だけでなく甲佐、健軍、郡浦(現在の宇城市)など広い範囲で直接支配を認められました。

阿蘇氏と南北朝の動乱

後醍醐天皇と尊氏による建武の新政は天皇中心の政治を目指しましたが、武士の強い反発を招きました。尊氏は政権を離れ、新たに天皇を擁立。尊氏方と後醍醐天皇方という 2 大勢力による争いが起こりました。

箱根竹の下の戦いに勝利したものの京





阿蘇ジオパークガイド
山崎 真流子さん(阿蘇市出身)

66 私は現在阿蘇ジオパークガイドとして活動しています。ジオガイドは阿蘇火山とジオサイトのつながりをわかりやすく伝える専門ガイドです。旅行会社のツアーや修学旅行、個人のお客さまなどさまざまなお客さまを案内しています。

市民の皆さんには今の暮らしが世界中の人にうらやましがらるのであることを感じてほしいし、誇りに思ってもらいたいです。ジオガイドにならなくても、その阿蘇の魅力を誰かに語ってくれるだけでもいいです。

その上でさらに興味があればガイドになっていただくのほうがいいと思います。お客さまの喜ぶ顔を一番近くで見ることができるとは素晴らしい仕事ですよ。



阿蘇市を含む阿蘇地域はユネスコ世界ジオパークに認定されています。世界も認める阿蘇は日本を飛び出し、世界を舞台にその役割を果たそうとしています。

阿蘇が世界で果たす役割を

阿蘇ユネスコ世界ジオパークの永田絃樹事務局長に聞きました。

Out of Aso

阿蘇の価値を世界へ

比較で見るジオパーク

同じように地形や地層から未来へのヒントを見つげるためには、まず身の回りの土地が一体どういうものなのかを理解する必要があります。ただ、その土地のことであれば、他の土地と比べてみる必要はありません。阿蘇はユネスコ世界ジオパークに認定されているので世界ジオパークと比較することができます。例えば、阿蘇の火山とアフリカの火山地帯で、どんな共通点があって、どんな悩みがあるのか。それとも全く違うのか。世界中のジオパークと繋がることで、私も知らないような、阿蘇についての新しい何かを海外の人が見つけてくれるかもしれない。これがユネスコ世界ジオパークの認定を受ける最も大きなメリットと言えます。

阿蘇の人のほんとうにすごいところ

阿蘇は2014年に初めてユネスコ世界ジオパークに認定されました。4年ごとに再認定のための審査が行われます。今年10月にはアイスランドやマレーシアの審査員2人が審査のために阿蘇を訪れました。今回の審査で2人に伝えたかったのが、この4年間で地元の人たちがど

ジオパークに未来へのヒントが

ジオパークは、地質・地形から地球の過去を知り、未来を考えて活動する場所です。例えばこんな話があります。昔、山の上に薬師さまがいたそうです。あるとき山が崩れてその薬師さまがあるところまで流れてきました。当時の住民はそれを見て、山の上に戻したそうです。数年後、その薬師さまはまた同じ場所に流れてきました。住民がなぜここに流れてきたのか尋ねると、ここが好きだからと答えました。喜んだ住民はその場所に薬師堂を建てて薬師さまを祀ったそうです。これは薬師さまと住民の心温まる伝承ですが、一方で、頻繁にその土地で土砂崩れが起こっていたということも浮かび上がります。昔からの伝承の中に、未来を生きていくうえでの重要なヒントが隠されていることがわかります。

同じように地層や地形などにも未来へのヒントが隠れています。変動し続ける自然・地球について、過去の大地の記録から知ること、未来を想像することができます。ジオパークはこうした未来へのヒントを楽しみながら得ることが出来る場所です。

んなな思いで、どんな取り組みをしてきたのかということでした。例えば地区で行われる区役。道の草刈りや野焼き、お祭りなどさまざまな行事を地域の共同体で担ってききました。これらの行事は土地とそこに住む人々の関わり方を理解するうえでとても重要なものです。この4年間は熊本地震やコロナ禍で行事を中止にしたところも多くありました。それでも、また人が交わるようになると行事を再開しています。これは本当にすごいことだと思えます。阿蘇の皆さんはコロナ禍でも地域のつながりをなるべく残そうと、悩みながらも進んできました。これが今回の審査で一番アピールしたいところです。

阿蘇が世界で果たす役割

阿蘇ほど人の生活が土地に紐づいているところはないと思います。阿蘇の人たちは、地球の恵みや災いを受けながらカルデラの中で暮らしてきました。その中で得た知恵や、団結しながら生きてきた阿蘇の人たちの営みそのものを世界に向けて伝えていくことが阿蘇の役割であると考えています。そうすることで、世界のどこかで、いつか誰かの役に立つ。そう願っています。



阿蘇山上での審査の様子



流れついた薬師さま